

2005年6月改訂(新様式第1版)

日本標準商品分類番号
8 7 2 6 1 5
承認番号等 (61AM)1955
薬価収載 1986年3月
販売開始 1986年3月
再評価結果 1983年4月

貯法：気密容器
火気を避けて室温保存

【禁忌】 (次の部位には使用しないこと)
損傷皮膚及び粘膜 [刺激作用を有する]

【組成・性状】

1. 組成

イソプロパノール(C₃H₈O：60.10)99vol%以上を含む。

2. 性状

- 本剤は無色澄明の液で、特異なおいがある。
- 本剤は水、メタノール、エタノール(95)又はジエチルエーテルと混和する。
- 本剤は燃えやすく、揮発性である。

【効能・効果】

手指・皮膚の消毒、医療機器の消毒

【用法・用量】

通常イソプロパノールとして、
50～70%液を用いる。

外用殺菌消毒剤
日本薬局方
イソプロパノール
Isopropanol

第4類アルコール類 **火気厳禁**
水溶性 危険等級Ⅱ

160

製造販売元 **株式会社 三恵薬品**

愛知県豊橋市入船町21番地

製造番号

使用期限

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1) 本剤が眼に入らないよう注意すること。
入った場合には直ちに水でよく洗い流すこと。
- (2) 広範囲又は長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。(イソプロパノール蒸気に大量又は繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがある。)

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類\頻度	頻度不明
過敏症 ^(注)	発疹等
皮膚 ^(注)	刺激症状

注) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

3. 臨床検査結果に及ぼす影響

注射部位に発赤を起こすことがあるので、アレルギーテストの判断を妨害することがある。

4. 適用上の注意

- (1) 投与経路：外用にのみ使用すること。
- (2) 使用時
 - 1) 同一部位(皮膚面)に反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
 - 2) 本剤は血清、膿汁等のたん白質を凝固させ、内部にまで浸透しないことがあるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合には、十分に洗い落としてから使用すること。
 - 3) 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具等には、変質するものがあるので、このような器具は長時間浸漬しないこと。
 - 4) 本剤は、引火性、爆発性があるため、火気(電気メス使用等も含む)には十分注意すること。